

普段着のわたしたち

広島県・宮島の弥山にある大聖院へ参拝してきました



境内にある霊火堂には、弘法大師が修法を営んで以来 1200 年以上燃え続ける護摩の火が「消えずの火」として残っています。この霊火は広島平和記念公園の「平和の灯火」の種火としても用いられたそうです。

やっさん

「韓国冷麺」の、麺の食感にはまっています。韓国(味)は嫌いなので、同封の即席スープの素は捨て、「醤油ラーメン味の韓国冷麺」なる、まことに暑い夏にふさわしくない面倒くさいものを作ります。まずはスープを作ります。一人分です。材料は、麺つゆ(大さじ半分)・醤油(大さじ1)・胡麻油(大さじ半分)・白コショウ少々・柚子胡椒(お好みの量)・水(350cc)・鶏ガラスープの素(大さじ半分)・魚粉(煮干しの粉大さじ半分)・砂糖(小さじ1)を混ぜ、よく冷やしておきます。それに茹でて冷やした冷麺を投入します。具材にキムチ漬を入れてしまうと、また韓国に戻ります(汗)。

ゆで卵と大葉ぐらいをおすすめします。



俊徳丸

安倍さんの衝撃的な事件以降、話題の「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」の聖本。信者らは3,000万で買うのだそうです。メルカリに出品されているか見たら4,300,000円で出品されていました(7/13現在)。



430円ならば購入して読んでみたいところですけど。家族をも破滅に向かわせるほど魅力的な教義が書かれているのでしょうか。

訶梨帝母



皆さん観ておられますかな? もちろん『鎌倉殿の13人』です。

先日、ついに九条兼実卿(画面右)と久我通親卿(画面左)の対談場面という大河ではおそらく初の場面が登場しましたね。どちらも西山浄土宗にとって重要人物です。

今現在はいよいよ二代目鎌倉殿の体制作りというところですが、この先起こる事がどういう事かはすでに書いた通りです。

征阿

また第7波です。もう政府の間違いに付き合いきれません。マスク・手洗い・換気が基本。それとウイルスを浴びやすい場所へ近づかないこと。ご一読お薦め。



迷走ゴー

お客様精神の厄く学ぶ姿勢



とある僧侶と話をしていた時の事、ふと自分が僧侶になった頃のことを思い出した。その僧侶とは年は違えども、お互いに新米の住職とあって顔を合わせれば現況報告から意見交換まで気さくに話をする仲だ。

その日は、急に相手の僧侶が「分からないことがあっても、誰も何も教えてくれない。初めてのことがばかりなのに、どうするのか誰も何も言ってくれない。知らないことなのに、出来ない」と叱られる」と口を開いて始まった。要は現状に対する不満であるが、「とにかく何でも聞いたらいいいじゃない」という私の意見は上の空で、「大変、大変」と繰り返す。堂々巡りとはこの事であるが、そこでふと私が僧侶の世界に入った頃のことを思い出して告げてみた。私にも同様の経験があり、似た様な思いを抱いたことがあったからである。

私は一般的なサラリーマンの家庭で生まれ育ったごく平凡な人間で、所謂在家から出家して僧侶となった身である。生家の宗旨も、私が現在僧侶として身を置く宗旨ではない。幼い記憶を辿っても、佛壇の前に座ったことを思い出すのが難しいほど信仰から遠ざかった生活をしてきた。そのような私がなぜ僧侶に……という話は省くが、一般人の私が抱いていた勝手なイメージを悉く覆してくれたのが僧侶生活の幕開けだった。

僧侶というと専門的な機関、総本山や大本山と呼ばれる場所があって、そこで修行をして認可されると思われる方も多いだろう。大方その通りであるのだが、目新しい学校にでも通う感覚で胸を膨らませながら寺院に入ってきた私は、教えを授かること、日常の立ち居振る舞いを指導されること、謂わば僧侶の手解きを待ちながら日々の生活を送っていた。しかし、一向に待ち望んだ時限はやってこず、寧ろ叱咤激励ばかりされていた。とはいえず、無知蒙昧で分からないことが分からない段階の私には、何をどう勤め励んでよいか見当がつかず、途方に暮れるようになっていった。

断っておくが、これは寺院への批判ではない。そもそも心構えに問題があったという話だ。

私を知る僧侶の世界は、何も出来ない、知らない者に対して手取り足取り懇切丁寧に教え、出来れば褒め、出来なければ出来るまで何度でも親切に創意工夫して導いてあげる、といった世界ではない。手取り足取り教えられることなんて一回でもあればいい方で、基本は見学、その場で覚えていかなければならない世界である。

なぜなら、僧侶は寺院にとってお客様ではなく、佛教の実践者であり、体現者であり、伝道者であるからである。義務教育の様に受動的な学校でもなく、あくまで能動的な実践の場、修行をする場所であって、口を開け、黙っていて教えが降り注いでくる所ではない。

私はこのことに気付くまで長い時間を要した。それまでは不平不満の塊であったと思う。

なお、冒頭の僧侶にこの話をした所、すぐに分かってくれた。やはり素直が一番だな、と、こちらまで心が清らかになった次第である。

やっさん

美しく、愛情に満ちたお佛壇

何年か前に、迷走坊さんと神戸市内にある佛具屋を訪問したことがある。その際に定価5,000万円の佛壇を見せていただいた事を思い出した。床下を補強しないと設置できないであろう重量感。佛壇上部の欄間は、お釈迦様の誕生から御臨終までの様子を細かい彫刻で表現された、とても豪華なものでした。全体的な印象は、金箔で輝いている豪華さではなく、蒔絵がふんだんに施してある上品な豪華さ。金箔の伝統工芸は北陸金沢ですが、蒔絵は姫路のそれだそうです。姫路城の殿様が奨励したそう。この佛壇は、引き出しの裏面にも同じような豪華な蒔絵が施してあったのには驚きました。いったい、いつ誰がひっくり返して裏面を見ることがあるのでしょうか。この5,000万円の佛壇は、バブル期、神戸市内のお金持ちに毎月3台売れたそうです。

それとは別の意味で、昨日、とても美しく愛情満ちたお佛壇に出会いました。私のお寺の檀家J子さんのDIY手作りのお佛壇です。元々J子さんの趣味のステンドグラスで作られたものです。製作

当初は、ご自身の為のお佛壇だったそうです。しかし、この5月に享年49歳で亡くなられたご長男さんのためのお佛壇となりました。今回、J子さんは、お佛壇にご本尊の阿弥陀さまを安置され、七七日忌の前日に開眼(かいげん)式を行いました。下写真のように両扉には蓮の華に燕が、阿弥陀さまの後ろ正面は鳳凰がデザインされ、更にその後方からLEDでの照明が素敵な演出をしています。その狭い空間に照明器具を装着するのは困難で、思案の末、クリスマスのイルミネーションなどに使うテープ状になったLEDを装着したそうです。それが更に美しさと慈悲を表現し、佛とステンドグラスの相性の良さに初めて驚きました。また燭台・香炉・花立の三具足と、ご長男のお位牌もクリスタルガラスでできています。私がつけさせていただいた戒名がLEDの照明に照らされて、やさしく浮かびあがっています。

我が宗にはこの形式の佛壇を、線香は折って寝かせて… などうるさい人がいます。そもそも親鸞様の時代には佛壇も線香もなかったのです。佛壇が誕生し普及したのが江戸時代中期以降。大名や豪商など一部の家には、ご先祖を祀る専用の部



屋、「佛間」がありました。とにかく江戸の町は空風が吹き、火事が多く、佛間をコンパクト化して、緊急時に持ち出して避難できるようにしたものが「佛壇」だそうです。 俊徳丸

こもりうた91

冷蔵庫が麦茶やジュースやアイスクリームで埋まる夏休み。

最近の冷蔵庫、扉にマグネット



がつかない事ご存知ですか？先日ラジオからその話題が流れてきました。

実は、私も数年前に買い替えました。特に思い入れもないので、無難な色、サイズを確認し、「今月コレがお買い得！」というポップに誘引され購入。配達完了後、電源を入れ、以前から貼り付けてあった息子の予定表や町内会の諸々をマグネットで貼り直そうとした途端、「ザンッ！」となだれ落ち絶句。初めてその事態を理解しました。

私のマグネットは佛像、和菓子、動物等々、可愛いと思い買った物や、お土産にもらったもの。いずれもお気に入りです。冷蔵庫にポチッと貼り付け愛でておりました。いや、マグネット云々ではありません。月間予定、来週から給食が始まるの終わるの、いつから何がいるのいらぬのと山ほどある連絡事項。中身を覚えておくために購入レシートを貼ることも。これらをどこに貼ればいいのか、と怒りがわきました。ラジオの投稿も似たり寄ったりの内容。多くの方が同じ思いなのだと思わします。

メーカー側は消費者に無断でこんな仕様にしないでいただきたい。販売店はちゃんと「マグネットつきません」と明記していただきたい。その程度大したことではないと思

いなら大間違いです。①容量（サイズ）②値段③マグネットがつく、くらい重要な仕様です。もしかしたらDr.コパの風水の教えに基づくものかしら。冷蔵庫の扉にメモなどを貼るのは風水的にはダメ、運気が下がりますよ、というのを聞いたことがあります。コパめ（怒）。

冗談はさておき、マグネットがつかない理由は、デザイン性の向上、より美しさを求めてガラスドアの冷蔵庫が増えてきたのだそうです。扉が液晶パネルで、スマホと連動したりする機種もあるようです。冷蔵庫の中身を入力すると賞味期限とか管理してくれる？料理のレシピが冷蔵庫の扉に表示される？一般的に普及するのはまだ時間がかかると思いますし、冷蔵庫は冷蔵庫でいいのでは。冷蔵庫がテレビになったりパソコンやスマホになる必要があるのでしょうか。

諦めるなかれ。まだまだ金属扉の冷蔵庫もあるようです。今後買い替えを予定している方、マグネットが付く方がいいとお考えの方は、ポッケに一つ忍ばせて売り場でポチッと確認してみてください。

ちなみに、我が家は現在吸盤クリップで学校行事などが貼り付けてあります。100均でも「マグネットのつかない冷蔵庫にはコレ」という商品が数々あるので同志は多いです。金属扉の冷蔵庫の復権を希望します！



『私説法然伝』(90)

助けてほしい⑤

先月号では法然上人の弟子になる武者・熊谷次郎直実について書きました。今月号はその続きについて書きます。

【文治三年(一一八七年)鶴ヶ岡八幡宮で開催された放生会(殺生の罪を滅罪し生善の為に生き物を池などに放つ行事)の催し物の流鏑馬(乗馬的を射抜く)で、的を立てる役に任じられた熊谷次郎直実は、それを不服として役目を果たさず、それが原因で所領を没収されたと言う。さらには育ての伯父の久下直光と所領をめぐる裁判沙汰になる。建久三年(一一九二年)すでに鎌倉殿として君臨し、さらには征夷大將軍ともなっていた頼朝の御前にて口頭弁論が行われた。口下手の熊谷次郎直実にとっては裁判は苦痛でしなかったようである。頼朝の質問にも上手く答弁が出来なくて、最終的には梶原景時が良からぬことを頼朝に吹き込んでいるに違いないなどと怒り出し、その

場で鬻(もとどり)を落として出家すると叫んでしまう。そして実際に鬻を切り落として放逐してしまったと言う。裁判の場にはあつけにとられた頼朝が取り残されたと伝えられている。諸説あるが、建久三年以前に出家していたという説もあり、またこの出来事は建久三年前に起きたのではないか、という説もある。いずれにせよ『吾妻鏡』という鎌倉幕府にとって重要な資料に記載されるほどの事であり、おそらく事実なのであろう。こうして熊谷次郎直実という武者、言い換えれば戦場でしか輝けない根っからの軍人は最高司令官の眼前で全てを投げ捨てたわけである。そして伊豆にいた念佛僧たちから法然上人についての話を聞いた熊谷次郎直実は法然上人のいる京の都を目指すのである。】

ここまでで九条兼実、善慧房證空、熊谷次郎直実という三者が登場いたしました。いずれも三者三様の人生模様です。九条兼実は言わずと知れた藤原摂関家の氏の長者であり、関白という現代で言えば総理大臣職を務める大物政治家でありました。そんな

な彼がなぜ法然上人に助けを求めた事になるのか？善慧房證空は、九条兼実の最大のライバルであった久我通親の猶子にして実務官僚として確実な未来があったにも関わらず新興教団であった法然上人になぜか弟子入りするという不思議。そして職業軍人であったために戦のない世界では生きる場所を失った男であった熊谷次郎直実がなぜか法然上人と出会い、弟子となり念佛の道へ進むのはなぜか？それらを見つめ直すことで、実は法然上人が何を伝えられていたのか、本願念佛とは何か？ということが浮かび上がって来るのです。

以下次号に続く(征阿)



鶴岡八幡宮で放生会が行われた
と伝わる源氏池

インターネット勧進

奈良の法隆寺さんがクラウドファンディングで寄進を募って話題になりました。

この言葉は、「群衆（クラウド）」と「資金調達（ファンディング）」

を組み合わせた造語で、

「インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調



達する」ことです。カタカナ語を使うと新しそうですが、インターネットのない時代にも個人から資金を募り、何かを実現する手法がありました。お寺の造営や佛像の修復のために寄附を募ることを「勧進」と言います。

『無量壽經』に「ごん ごほうじょう かいせんほうもん嚴護法城 開闡法門」という言葉があります。嚴かに法の城（お寺）を護り、法門（佛教の教え）を開いて明らかにする。

「勧進」は、お寺を維持するためだけでなく、佛縁を広げて多くの方々が佛様の功德に導かれるようにする大事な修行なのです。寄進者から純粋な気持ちを浄財の形で頂くのです。

法隆寺さんは景観整備のため生垣の剪定資金として2千万円を目標に始められたところ、半日で集り、この稿を書いている時点で1億3千8百万円を突破しています。超えた分は美術品の修復に充てるそうです。

注目すべきは金額の多寡ではありません。寄附した人がホームページに書き込んだ応援コメントです。「微力ながら支援させていただ

きます」「世界遺産の法隆寺が整備費などで困っておられることにとっても驚きました」「コロナ禍もあり、最近では参拝できておりません。少しでもお役に立てば」と、若い世代が今回の取り組みに好意的であることです。

飛鳥時代に建立された法隆寺さんには檀家さんなどほぼ無いでしょう。ただ、超有名寺院ですから、1人で2千万円を寄附して下さる方が幾らでもおられるでしょう。敢えて個人からの少額の寄附を積み重ね、手間暇かけて事務手続を行うのは大変です。しかし、激減した拝観料収入の復元には、参拝希望者個々に直接訴える寺院努力が欠かせません。

読者の皆さん、菩提寺の窮状をご存知ですか。コロナで参拝者が減ったのは法隆寺さんだけではありません。恒例行事や催事を開くことができず、どこのお寺も収入が減っているはずですが、同時に、挽回しようと努力しているでしょう。お坊さんは両方とも積極的に発信した方が今の時代に相応しいのです。法隆寺さんは Web 時代の寺院が取るべき広報のお手本を示してくださったのです。

試しにこの QR コードをスマホで読み取っ



てみてください。もはや「謙讓の美德」などは死語です。

お寺も企業と同じで社会経済の激流に放り込まれています。大学の佛教科で「お寺のマネジメント」をなぜ教えないのか、不思議で仕方ありません。もう手遅れなのかなぁ。

迷走ボー